

神奈川ウォーキング参加 H24-08

大山街道-9 (大山街道-8+1)

大山山頂を目指して

日時：平成24年11月7日(水) 集合：大山ケーブル駅9:30

コース：①大山ケーブル駅→ケーブル阿夫利神社駅→阿夫利神社下社 } 合流→16丁目→大山山頂(本社)
 ②「古宮旅館」宿泊者で希望者 →男坂 →阿夫利神社下社 }
 <昼食>→見晴台→二重の滝→阿夫利神社下社→③ケーブル→大山ケーブル駅 } 合流→解散
 →④女坂 →大山ケーブル駅 }

宿泊者&希望者→「古宮旅館」→バス停16:15発→伊勢原駅
 (伊藤②ルート、自宅含め21,000歩)

参加者：神谷(L)・田村啓(SL)・吉野(案内先導)・佐藤伊・藤崎・吉越・餐場・常盤・鈴木徳・大平
 ・渡辺ノ・栗本・田村邦・高橋文・伊藤真・小野里・内田絵・熊嶋・濱崎和・濱崎信・石川研・石川正
 ・新谷・中村・平野・山内 合計26人(当日参加者4人) ★写真：日付赤字は田村啓さん撮影

11月7日(水)：6時皆さんに合わせて起床、朝風呂に入り近くを散策。爽やかな朝、快晴で紅葉が映える。



↑「とうふ坂」の先導師旅館「古宮」11/6(火)宿泊宿



古宮の「とうふ坂」のトンネルを潜り川の橋の上から大山と川のせせらぎを見る。快晴の青空だ！

今から登る大山山頂からの景色を期待！

宿坊&先導師：江戸時代庶民の信仰を集め、「盆山(夏山)詣り」は年間約10万人の参拝者が有ったと云われ、講社(信者)達を大山へ誘ったのが「先導師」で、本来修験者で、無病息災を祈る事を職業とした「御師(祈祷師)」で、やがて「大山詣り」の手配を全て行う

ようになり、自らの宅に信者を宿泊させるようになり、「宿坊」として発展したようです。(伊勢原商工会)

7:20から朝食、大山豆腐最高に美味しい。

↓森山さん所用で御帰り



鍋の豆腐はさっとお湯に付ける程度で、煮すぎない！



今日は「古宮」に荷物を預けて「大山詣り」背中が軽い。「男坂」を登るが下社まで①「ケーブル」もOKです。
勿論②「男坂」組に参加

②「男坂」組 出発 8:07

①ケーブル組の古宮旅館2階から御見送りを受けて



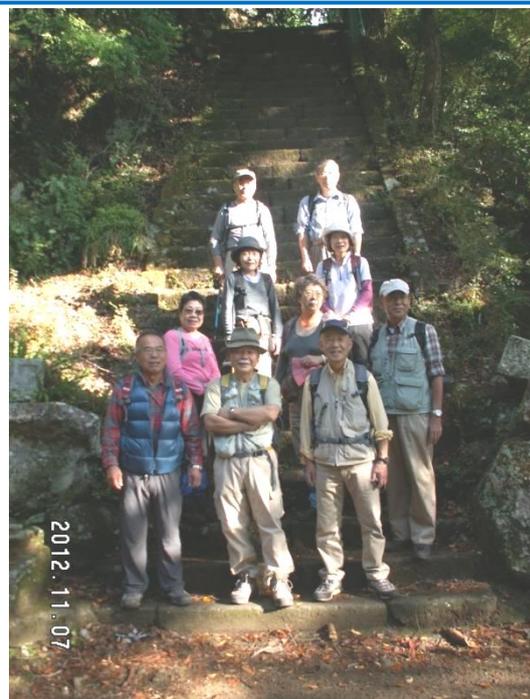
大山山頂コースガイド (大山観光案内HP)

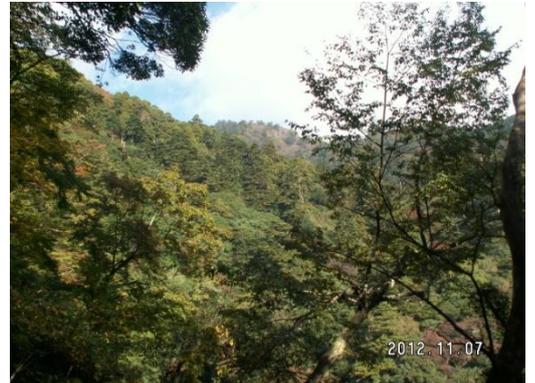


男坂・女坂分岐点 8:25

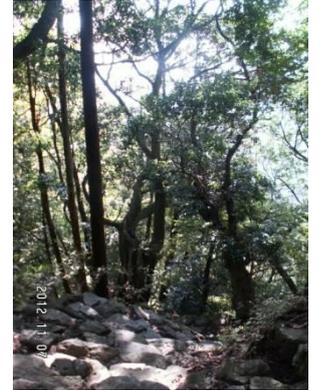


八兼思兼神社：男坂と女坂の分岐点に有る為、「追分社」ともいわれております
田村さんのストレッチ↓を終えた頃、高橋文さん到着。男坂の始まりの「急石段」でスタート記念写真を撮る。11人 8:37→





流石に男坂、女坂に比べるときつい。しかし奇形の古木や、根っこが歓迎して力を与えてくれる



大平さん

「八大坊 上屋敷跡」9:21 もうすぐ下社です。下社下の紅葉9:26 追分社から約50分でした。今朝古宮旅館周辺散策入って、4,900歩でした。

阿夫利神社下社に到着すると、大山山頂昇り口で大平さんに出会う。脚が弱く皆さんより先に急石段を昇り上で待っていると。これがハプニングになりました。ケーブル組到着しても神谷Lだけ、大山ケーブル駅で大平さんを待っていると聞いて、直ぐ神谷Lに携帯連絡する。待ち合わせ場所の取り違えの様でした



今から登る山頂があやしくなってきました。登り口の紅葉は鮮やかですが。↑こま回しの真純(撮影者大平さん)

大山阿夫利神社
御祭神 大山祇神 高麗神 大雷神

大山は、またの名を「あふり山」という。あふりの名は、常に雲や霧を生じ、雨を降らすのでこの名が起ったといわれる。
標高は、一二五・七米で、関東平野にのぞんで突出している雄大な山容は、丹沢山塊東端の独立峰となっている。
阿夫利神社は、古代からこのあたりに住む人達の心のよりどころなり、国御岳(国の護りの山)神の山としてあがめられてきた。山野の幸をつかさどる水の神・山の神として、また、海上からは羅針盤をつとめる海洋の守り神、さらには、大漁の神として信仰をあつめると共に、庶民信仰の中心として、今日に及んでいる。
山頂からは、祭りに使ったと考えられる縄文時代(紀元前約一〇〇〇年頃)の土器片が多く出土している、信仰の古さを物語っている。
仏教が伝来すると神仏習合の山となり、阿夫利神社は延喜式内社として、国幣の社となった。武家が政治をどるようになると、代々の將軍たちは、開運の神として武運の長久を祈った。
引目祭・簡粥祭・雨乞い・納め太刀・節分祭・山開きなど、古い信仰と伝統にまもられた神事や、神に捧げられる神楽舞・神事能・狂言などが、昔のままに伝承されている。
全山が四季おりおり美しい緑や紅葉におおわれ、神の山にふさわしい風情で、山頂からの眺望もすばらしい。都市に近いため、多くの人に達し親しまれ、常に参詣する人の姿が絶えない。



阿夫利神社下社 696m h、ケーブル組を待つ
頂上の快晴は期待出来ない、残念がる田村SLさん。
神谷さん到着し、大山山頂目指し集合写真↓





↑昇り口の紅葉が綺麗な広場で田村SLによるストレッチ、↑急斜面の石段からスタートです。10:19



↑ゴツゴツ、ゴロゴロした石段もなんのその

8丁目、まだまだ



山頂登山のリーダーは大山に詳しい吉野会長と、神谷L先頭にて引率
 後続隊は徐々に遅れる。休憩は先行組と後続組で別々に取る事にする。
 巨木の「夫婦杉」モデルは「大山街道」企画・実行功労者田村さん夫妻



14丁目：牡丹岩：観る余裕無く、脚は重くなる、28丁目の中間地点です。↑紅葉は始まりの段階です



根っこの仏様

天狗の鼻突き岩：直径15cmの穴があいている。↑「御賽銭を取っている様に見える？」大山の天狗がこの岩に鼻を突いた伝説から。15丁目



↑20丁目富士見台、富士山は見えません。参考までに「ひらさん」の写真を借用させて頂きました。↓



↑あと600mです



↑あと200m



山頂本社入り口の鳥居が見えて来た。先行隊↑が手を振って御迎いです。最後尾隊もう少しです、頑張っ！吉野会長ここから左遊歩道を通ってアンテナのある展望台に案内されました。

阿夫利下社スタート10:19⇒大山山頂到着12:04 下社から約100分、良く頑張りました!



12:20~12:50 大山山頂で昼食、「古宮旅館おにぎり」



↑奥の院



↑阿夫利神社本社 12:34



「不動尻見晴台」へ
「雷尾根」を下る



大山山頂1251, 7mh-下社696mh=標高差556mを登りました。↑紅葉と落ち葉の道を楽々
556mh÷28丁=約20mh/丁と云う計算になりますが・・・

吉野会長「80歳まで登りたい!」皆さんも負けずに頑張れますか・・・?



不動尻や三峯山に向う文岐点

↑ケーブル駅や下社が見える↑伊勢原c cも見える
このあたりまでは勾配も緩やかで楽ちんでしたが、これから少し急勾配の下りです。脚を痛めぬように、ゆっくりと降りて行きましょう。



梯子と鎖付きの難所もありました



見晴台休憩



大山：丹沢連峰の東に位置する、独立峰。美しい稜線を描く、標高1252mの秀麗な大山は、はるか縄文の昔から、霊山として信仰を集め、別名を「あぶり（雨降、阿夫利）やま」という。相模湾から吹きつける海風が大山にぶつかり、雲となって雨を降らすため、こう呼ばれてきた。山頂には紀元前97年創建とされる「大山阿夫利神社」中腹には「755年開山の古刹「^{あぶりさん}雨降山大山寺」が有る。つまり、神仏習合の、正に聖域なのです。「はるか二千の時を超え、古の神の懐に抱かれる森」大山の深い森に神々の息吹を感じました。（伊勢原商工会）

見晴台で今降りて来た、大山山頂方向の尾根の紅葉を背景に集合写真↓



↓見晴台からは二重滝に向って、古木広葉樹林を横切る楽な道です奇形古木を眺めながら



↓二重の滝：細い絹糸のように→



14:27二重の滝を過ぎると、もうすぐ下社。
下社到着14:40。山頂から約100分。
休憩を入れて、登り下り共に100分で、ハイキ

ングガイドとほぼ同じ時間でした。皆さん健脚です。

阿夫利神社下社に着くと茶店の女将さんに又しても御茶を戴く。下社には「御神水」も有るがこのお店で @200 のペットボトルの御茶を購入しました。集合写真のシャッターも押して戴き、ささやかな御礼です。



アフターウォーク in 古宮旅館

14:50 発のケーブルに、少女時代に若返り。下山し荷物を預けている「古宮旅館」神谷Lの御配慮で、ここでアフターをすることになりました。残念ながら「大山豆腐」在庫なしでした。お湯も落として駄目でしたが、シャワーはOKとの事で使われた方も居られました。美味しいビールでした。16:15 のバスで伊勢原駅へ。

街道をゆく～大山街道総括編 (地図上の道路距離は64 kmです、大山登山は山に付き歩数参考までに)

NO	月日	工程	歩数	km	参加者
I	H23.9.20	赤阪御門～三軒茶屋	16,000	11	28
II	H23.10.23	三軒茶屋～二子玉川	17,000	12	23
III	H23.12.15	三軒茶屋～溝口	18,000	13	29
IV	H24.2.24	溝口～荏田	16,000	11	33
V	H24.4.17	荏田～南町田	18,000	12	33
VI	H24.5.29	南町田～海老名	18,000	12	26
VII	H24.8.7	海老名～愛甲石田	18,000	12	17
VIII	H24.11.6	愛甲石田～阿夫利神社下社 (先導師宿坊・古宮宿泊)	20,000	12	22
IX	H24.11.7	①阿夫利神社下社～阿夫利神社本社 (大山山頂)	(16,000)	約4時間	26
		②古宮旅館～男坂～阿夫利神社本社 (大山山頂)	(20,000)	約6時間	
合計			141,000	95	237



納め太刀: 頼朝が武運を祈り太刀を奉納した故事より、江戸庶民が石尊信仰に丈余の木太刀を奉納する習慣があり、現在でも一部受け継がれている

編集後記: 昨日とはがらりと変わり、快晴の大山山頂「阿夫利神社本社」詣でした。お陰様で「とうふ坂古宮旅館」⇔大山山頂阿夫利神社を歩いて制覇出来ました。「街道をゆく～大山街道」ウォーク、平成23年9月20日(火)「赤阪御門跡」スタートから阿夫利神社下社までの64 kmを8回に分けて企画され、最後に先導師宿「古宮」旅館に一泊のプラスサービスプラン「大山山頂阿夫利神社本社お詣り」を企画された神谷Lと田村さんに厚くお礼申しあげます。平成22年4月26日(月)家内と山頂お詣りした時とは違って、多くのウォーキング仲間と一緒に楽しい2日間でした。皆さん有り難うございました。いつものポケ防止用日記帳の「メモと写真」です、失礼な写真、記述あれば御許しを。